

## ② 特別企画展

# 描かれた歌舞伎の世界

開催日時

平成23年4月23日

(土)

5月22日

(日)

### 「描かれた歌舞伎の世界」

義理の父である徳川家康が將軍職につき、お江の長女、千姫が大坂城の秀頼に嫁いだ慶長八年（一六〇三）、長く続いた戦乱はようやく終わりをづけ京の町は解放感にあふれていた。女旅芸人、出雲の阿国が始めた「かぶき踊り」が人々の圧倒的的支持を受けたのもこのころであった。

ここでは当時のようすを描いた江戸時代前期の作品を集め、歌舞伎への道のりを表現した。画面は、かぶき踊りは勿論の事、鼓をうつ者、最新の楽器である三味線を弾くものなど賑やかである。観客もこれに劣らず派手な装束を身に付け、手踊りで興じている。この景観こそ、私たちの誇りである長浜曳山子ども歌舞伎の世界に到る道程と言い換えてもよい。

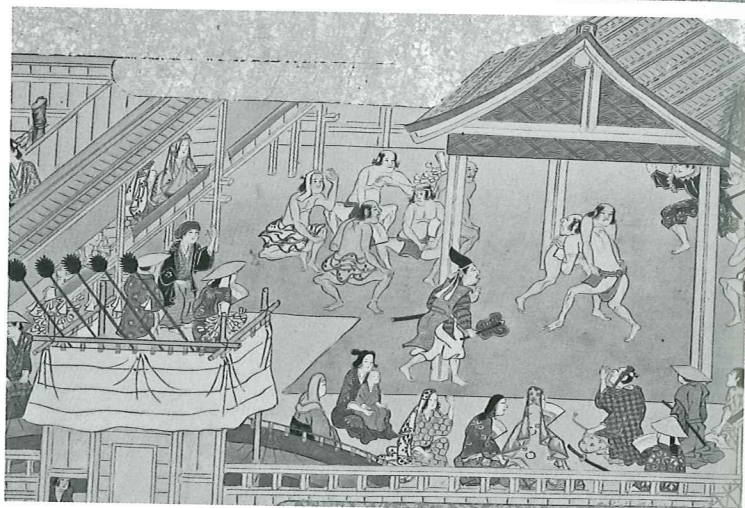


遊女の持つ三味線は全体に装飾が施され、二本差しの鐙は花卉を思わせる。



四条河原遊楽図屏風(部分) カラー図版8～9頁参照

役者におとらず観衆も個性的である。男は髭を蓄え、長い刀を腰に差し、女は扇で顔を覆う、冠りものをするなど実に気儘な風体。



**四条河原図巻(部分)**

カラー図版16~17頁参照

本資料の中には若衆歌舞伎をはじめ、猛獣使い、相撲興行などのほか、猿廻し、川原で禊をする修行者、焼饅頭売りなど、多彩な光景が活写されている。



本資料の制作年代を確定する基準となった若い女の図。師宣の寛文美人図の特徴を示すとされる。

画面の隅には布に包んだ琵琶を抱きかかえた座頭が描かれている。なお、四条河原図巻には若衆歌舞伎を見ようとする座頭、四条河原遊楽図屏風の隅には犬や子どもに追われる座頭の姿が描かれており、興味深い。

野郎歌舞伎図屏風(部分) カラー図版12~13頁参照